

# 聖マリア国際協力ニュース

第100号

平成20年12月1日発行

## 皆様ありがとうございました「病院経営・財務管理」コース修了

研修員一同



研修を無事修了し記念撮影

今回、JICA研修に参加する機会を得られた研修員全員は、日本の政府と国民の皆様から感謝の気持ちを表明したいと思います。とりわけ聖マリア病院の職員の皆様には、私たちに暖かく好意的に接していただき、また教育的、学究的な雰囲気にあふれる研修の場を提供して下さったことに対して感謝申し上げます。日本文化は独特なものです。私たち外国人が理解することは決して難しくありません。例えば日本人がよく行う謙遜の表現は、相手の気持ちを和らげるうえで非常に有効です。このことは深く印象に残り、これからの私たち自身に大きな影響を与えることでしょう。また日本では公共の場所、私的な場所を問わず、どこに行っても非常に清潔です。このようなことは国民一人一人によって尊重される文化が存在して、はじめて成しえることだと感銘を受けました。

研修中などの講義も内容豊かで刺激に富んでいました。また見学で訪問した施設の先見性と卓越したリーダーシップによって作り出され、また維持されていることがはっきりと理解できる所ばかりでした。特に

トヨタ自動車については、その創設者および後継者が成してきた大いなるイノベーションに対して賞賛の意を送りたいと思います。

マリアンハウスという快適な宿舎を用意して下さったことにも感謝いたします。故国から遠く離れて生活していた私たちにあって、そこは正に「我が家」でした。研修と日常生活の両面において、たいへんお世話していただいた国際協力部の杉本さん、矢山さんには特にお礼を申し上げます。また講義や研修旅行に際して、私たちのために解かりやすく通訳していただいた鈴木コーディネーターの貢献ぶりは言葉で言い尽くすことができません。最後になりましたが、この研修プログラムを企画し、資金を提供して下さったJICAの皆様にも多大な感謝を申し上げます。

これから私たちが成すべきは、それぞれの母国において、研修によって得られた知識を活かし改革を実行できるよう努力し、また各自の経験を多くの人々に伝えていくことであると認識しております。

“Domo arigato gozaimashita”



帰国前夜、自然と始まったお別れ会

## 長崎を訪問して感じたこと

※ JICA 研修員の一人であるヘンリーさん（ウガンダ出身）が熊本と長崎への研修旅行についての手記を寄せてくれました。前号の熊本編に続き、今回は長崎旅行についての感想を掲載します。

長崎の旅では、心の平静さと大きな遺産という日本人の別の面に触れることができた。

私たちは、日本人の起源はモンゴルや中国にあるということを目の当たりにした。日本の文化の発展や成長の原点はまさにそこにある。一方で日本は、隣国やこれまで交流があった国々との関係を絶つこともした。つまり諸外国の文化の影響を受けることに非常に注意深かったと言える。また良いものは取り入れ、目的に応じて作り変えるということも盛んに行われてきた。このようにして日本人は独特かつ素晴らしい文化を進化させていくことを可能にした。このことは言語、音楽、また近年においてはテクノロジーにも表れている。



グラバー園内の施設にて

## JICA 研修員 ヘンリー・マイケル・ルイガシ

まさにこうした強固な基盤があって、日本人は単にアメリカ人を許すだけでなく、彼らと強い協力関係を構築するだけの寛容で素晴らしい心を持つことができたのだと思う。長崎に投下された原爆は悪魔的な所業であり、その痛みや苦しみは被爆で亡くなった人だけでなく、生存者にとっても想像を絶するものであっただろう。また放射能の影響で病気に苦しむ人々もまた存在すると聞く。このような凶悪な行為に関わった者を許し、もう二度と戦争はしないと決意した日本人の行為こそ、全ての人類が尊重すべき模範である。爆心地を保全し維持し続けることは次世代の人々にとって非常に重要である。この記念碑を訪ねることができたのは、我々にとってたいへんな名譽であった。亡くなった人々の御霊が永遠の平安のうちにありように祈りたい。

最後にこのような旅の機会を与えて下さった日本の皆様へ感謝申し上げます。どうもありがとうございました。

印象的だった平和祈念像

## JICA 研修にオブザーバー参加して

※ 今回の JICA 集団研修実施に際して、聖マリア病院が行っている国際協力の取り組みを理解し、韓国カトリック医療協会の国際協力活動の参考にすることを目的に、カトリック中央医療院 (CMC) から李圭澤さんが当院に派遣され、本研修にオブザーバーとして参加しました。以下は研修を終えての李さんの感想です。

初めての日本！ 9月20日、ドキドキしながら福岡空港に着きました。初めて訪れた日本である久留米市は田園地帯で、研修中に宿泊するアパートの窓からは、黄金色の稲穂が延々と続く様を見ることができました。

JICA の研修コースが始まり、11名のいろんな国から来日した研修員と共にすべての日程に参加しました。私は聖マリア病院国際協力部へ派遣された職員として責任感を持ち、最善を尽くしました。

初期の研修では日本の皆保険制度など、全般的な医療システムについて学びました。その後の講義によって、聖マリア病院の経営手法を少しずつ理解できるようになりました。講義だけでなく、東京や長崎、神戸、阿蘇山、トヨタ工場など日本のさまざまな所を訪問し、見学研修を受けさせていただきました。特に長崎原爆資料館では戦争の悲劇と日本の力を感じさせられました。原爆で全てを破壊されたにもかかわらず、長崎を再建した日本人の努力に感銘を受けました。

聖マリア病院はカトリックの愛の精神を基本理念として掲げる病院であり、患者さんのために24時間365日診療を行っている病院として知られています。そして長い間、そのイメージで運営されてきましたが、最近患者が

## 韓国カトリック医療協会 李圭澤

少なくとも収益も減っていると聞きました。それには職員間のコミュニケーションがまだ十分ではないことや退職など、さまざまな問題が考えられます。しかし残念ながら、理事長と少数の人以外はこのような問題を深刻に受け止めていないような感じがしました。たぶん多くの職員の方々は、現在の医療保険制度により病院には何の問題も起こらないと考えているのではないのでしょうか。これは私共でも同じように抱えている問題です。

約2ヶ月の聖マリア病院での派遣勤務は私にとって新しい経験であり、かつて経験した貧しかった留学生活が思い起こされる時間でもありました。短い時間でしたが良い思い出として残ると思います。

最後に聖マリア病院 CEO である井手理事長をはじめ、藤堂病院長、国際協力部の職員の方々、聖マリア学院大学の秦野先生と学生の皆さん、研修コーディネーターの鈴木さんと11名の研修員たち、私を日本の研修に行かせてくださったカトリック医療協会の会長崔神父様、高さんとカトリック医療協会の皆様、CMC 経営指導室のハンジュラン部長や職員の皆さんすべてに心から感謝申し上げます。

関西研修からの帰路、新神戸駅で

## 国際緊急援助隊医療チーム中級研修に参加

NCU 仁田原重政

平成20年11月16日、JICA 大阪国際センターにて平成20年度第2回国際緊急援助隊医療チーム中級研修が行われました。

私は今年の6月に同センターで行われた導入研修に参加しましたが、中級研修への参加はこれが初めてです。研修の内容は7つの受講項目の中から選択できます。今回は「創傷管理」を選択しました。講義は3時間に分かれて行われます。1限目の講師は20年前に派遣された医師の方で、当時対応した戦傷外傷についてお話してくださいました。2限目は創傷管理の実践についてでした。この講義では、災害医療の現場では職種を超えた医療を提供できないとダメだという説明がありました。そこで、ふだん看護師は行わない縫合や糸結びなどの実習を行いました。始めのうちは結構難しかったですが、そのうち夢中になっていくにつれて、何だかブラックジャックになった気分になりました。ギブス巻きやギブスカッターでの切断などの実習も行いました。内科系の医師の方など、通常ギブスなど使うことがない人たちは皆興味津々でした。私も模擬患者になりましたが、ギブスカッターで切断される時、カッターで熱傷を負ってしまいました。患者さんの気持ちがよくわかりました。3限目は今回の研修で学んだ事のおさらいと、阪神淡路大震災以来よく耳にする

ラッシュ症候群についての講義でした。

今回の研修を受講するきっかけは、遡ること2年前、ジャワ島中部地震の際に、災害について何の知識や経験もないまま当院より救援に派遣されたことです。現地ではたくさんの貴重な経験をしましたが、災害医療の知識が有るのと無いのでは全然違っても痛感させられました。そこで国際緊急援助隊に登録し、研修参加を希望したというわけです。

皆さん、災害はいつ起こるかわかりません。少しでも興味のある方は、私と一緒に「目指せ、ブラックジャック！」ではなく、被災地で苦しんでいる人々に手を差し伸べましょう。

## 今月の動き

### 【派遣】

- 12月7日(日)～12月21日(日) 杉本孝生(国際協力部)：JICA スリランカ国健康増進・予防医療サービス向上プロジェクトへ短期専門家として派遣
- 12月7日(日)～12月27日(土) 山崎裕章(国際協力部)：JICA ミャンマー国主要感染症対策プロジェクトへ短期専門家として派遣
- 12月25日(木) 飛永浩一郎(リハビリテーション室)：JICA ボランティア派遣終了のため、スリランカより帰国。

### 【その他】

- 12月8日(月)～12月10日(水) 井手理事長他、建築関連施設見学のためソウル聖母病院を訪問
- 12月11日(木)～12月13日(土) 今村豊(血液内科診療科長)他、緩和ケア関連施設見学のため、江南聖母病院(ソウル市)等を訪問。